

〔論文〕

司書養成科目と関連付けた図書館サポーターの活動 —分類表、図書紹介と和綴じ本—

北 川 昌 子

1. はじめに

大阪城南女子短期大学（以下、「本学」）現代生活学科では、図書館司書資格取得をめざす高校生向けの2019年度入学案内で、“図書館をプロデュースする”というキャッチコピーを使用している。プロデュース（produce）とは、「映画、演劇、テレビ、ラジオなどで、作品や番組を企画・制作すること」¹⁾の意味である。2018年度、2019年度の本学の図書館サポーター活動のうち、キャラクター付き分類表および図書紹介のブックドレスは、図書館司書養成科目担当教員（筆者、以下「教員」）の企画に図書館サポーターがアイデアを出し、製作者または制作協力者として協働することが多かった。布装の和綴じ本に関する活動は、授業で修得した四つ目綴じをもとに図書館サポーターが独自にプロデュースし、学内外で図書館サポーターが一貫して、製本販売・製本体験企画も実現させた活動である。

本稿では、本学の図書館司書養成科目の受講生を中心とした図書館サポーターが、授業で修得した内容の延長線上で、教員とともに活動した内容について報告しつつ、図書館司書養成科目と関連付けた図書館サポーター活動の今後の課題を展望する。

図書館サポーターは、公共図書館では図書館を支えるボランティアとして活躍する人を指し、その活動状況を1970年代後半からの文献に見ることができる²⁾。読み聞かせ、図書の配架、装備・修理等、仕事内容は自治体の財政難や公務員削減が進むにつれて多様になっており、現在、社会教育施設としての公共図書館には欠かせない存在になっている。

大学図書館では2007年頃から、大学図書館における「学生協働」をキーワードとして、学生と図書館員が協働する図書館活性化活動が行われている。本稿では、「図書館サポーター」という名称を使うが、このほか、学生スタッフ、ピアサポーター等の一般名称や、図書館独自の固有名称が用いられている。2009年にお茶の水女子大学の学生の学習・教育支援を目的として導入されたLiSAプログラムが、“学生に対し、幅広い資料に接することによる「学習支援」や就業体験による「キャリア形成支援」という効果”を生むと考えられ、その後、図書館での学生協働は、図書館の存在意義をも高め、大学図書館界で話題を呼びながら波及していった³⁾。以来、各大学の図書館サポーター等の学生協働は、安価な労働力としての学生アルバイトとは異なる位置づけで、学修やキャリア形成を高めるとともに、学生の意見を取り入れた利用者志向の図書館運営と、図書館サービスの向上をも目的とした活動となっている⁴⁾。

なお、大学図書館での学生協働の内容は、図書館員が行うような幅広い実務的な業務内容を設定しているもの³⁾から、本学のようにPR等による利用促進活動を主体とした業務内容に限定しているものまで大学により異なり⁵⁾、無償・有償を問わず使用されていると考えられる。

2. 本学の図書館サポーター

2.1 学内の位置づけ

本学の図書館は、大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学附属図書館であり、この図書館の「図書館サポーター会設置要綱」(2015年4月20日施行)⁶⁾では、本サポーター会の目的を次のように規定している。

- 1 高等教育機関として、知性等の向上を図るため、学生への啓発の一端を担うこと。
- 2 図書館のサービス、利用マナーおよび施設・設備等の環境の向上について、利用者側の視点で自主的な活動を行うことにより、図書館広報をサポートし、図書館利用の活性化を図ること。
- 3 学生同士、図書館職員および教員との協働を通じて、図書館サポーター（以下、「サポーター」という）となる学生の社会人基礎力⁷⁾の育成を図ること。

本学の図書館サポーター（以下、「サポーター」）の活動目的は、他大学とはほぼ同じであるが、他大学とは異なり、学生と図書館員が協働するという関係性よりも、学生と教員が協働する関係性が強い。図書館副館長も務める教員が、学生とほぼ毎回いっしょになって活動をするため、図書館員は、サポーターや教員の提案に対して、実施した場合に支障がないか、図書館にとって改善となり得るか、必要な資料、材料の数量や期限等の見込みについて現実的で実務的な意見を述べたり、調達等を支援したりする。

学生にとっては、授業の延長線上で、机上の学問が実務ではどのように実現可能かを体験することができるため、業務の一部分を担っている感覚にもなる。ただ、「図書館実習」で行うような本格的な実務に関わる業務内容（例えば、図書の受入、目録作業、データ入力）を行っているわけではない。

組織は、毎年、公募により選ばれた、本学短大のサポーターから成る。任期は、委任された時から年度末までの約1年間で、図書館長から委嘱状を出している。運営に必要な事項は、図書館との協議によって定めることとしている。本設置要綱の作成にあたっては、2014年にすでに活動していた複数の大学から構成された「大学図書館 学生協働交流シンポジウム」の活動⁸⁾、⁹⁾等を参考に、実施されている大学図書館へ問合せを行った。

本学図書館では、図書館業務を行うことができる図書館員の専任2名と、実務経験のある副館長（教員）1名だけのため、学生のニーズにあったサービスや広報にまで十分に手が行き届かないことや、

司書養成科目を持つ短大として、図書館活動の参加経験を日常的に積む機会を持つことが課題であった。また、2014年段階では城南学園の四年制大学学生（以下、四大生）の図書委員に協力してもらう方法を四大教員にも相談したが、四大生と短大生とのスケジュール調整が難しいことがわかり、当面、サポーターは短大生のみでスタートすることにした。

また、「平成30年度 私立大学等改革総合支援事業調査票」（文部科学省）では、「タイプ1：教育の質的転換」のうち「教職員等の質的向上に関する取組」の「②TA等の教育サポートスタッフ」に本学サポーターは該当している¹⁰⁾。「教育サポートスタッフ」とは、「大学等における教育研究活動をサポートする学生スタッフ」で、「大学等でそれらのスタッフの管理」を行っており、「具体的な資質の養成や向上を図る目的」で行うものである。

2.2 サポーターの構成

2015年4月から2019年12月までサポーターの募集を行い、委嘱状を発行している。活動に参加したサポーターは、延べ33名である（表1）。2018年度からは、入学直後の1年生のオリエンテーションで、教員とともにサポーターも、一般的な図書館の利用案内を始めとして、サポーターの活動内容を説明し、サポーターへの勧誘を行った。このため、2018年度からは、司書科目受講生が所属する現代生活学科ライフデザインコースだけではなく、総合保育学科の学生1名も活動に参加した。

2019年12月現在、サポーターはライフデザインコースの司書科目受講生のみからなる11名となり、過去5年間で在籍者数が一番多くなった。

表1. 図書館サポーターの構成人数（単位：名）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
1年生	3	2	4	4*	8
2年生	—	3	2	4	3
計	3	5	6	8	11
備考	1年生のみ募集			*総合保育学科 1名を含む	

（注）年度途中からの参加者を含む

3. サポーターの活動

3.1 主な活動の概要

本サポーター発足初年度である2015年度活動は、就活に多忙な2年生は募集せず、1年生のみに募集を行ったため、活動人数が3名と少なく試行錯誤的に始めた。他大学のサポーターの様々な活動内容の学習を行ったうえで、図書館改善の必要性が高いと考えられた、見やすい館内マップや書架小見出しサインの刷新を主に取り組んだ。また、「図書館サービス概論」においてグループで作成したポスター案から、了承を得て受講生間で評価（投票数）が良かったポスター案の実用化を行い、

実際に各所に掲示した。同科目の授業で図書紹介のポップを作成後、それを基にした図書の展示コーナー作りも行った。

2016年度は、2015年度の活動のほかに、学生に親しみやすい図書館サポーターのマスコット・キャラクター（バクくん）を考案し、キャラクターが就活コーナーを案内する広報を行った。

2017年度は、図書館員が発信していた図書館ブログを引き継ぎ、図書館サポーターブログに発展させ、活動内容を公開報告するように変更した¹¹⁾。サポーターメンバーが変わっても、将来的に誰でも書きやすいマスコット・キャラクターが必要と考えたサポーターは、新しく図書館のマスコット・キャラクター“ハシモト”を考案し、図書館評議会でもサポーターによる活動報告を行った。

2018年度は、メンバーも増え、活動日数を月1回から月2回に変更したため、図書紹介のブックドレス（5月）、図書展示（6、10、12月）、サインの刷新（随時）、サポーター作成の図書館だよりの発行（7月）、マスコット・キャラクター付き分類表の検討、布装の和綴じ本（四つ目綴じ）の作成・販売（2018年10月、2019年1月）を行い、後期は主に和綴じ本の作成に注力した。

2019年度は、2018年度を踏襲し、ブックドレス、図書展示、サインの刷新、図書館だよりの発行、和綴じ本の試作、牛乳パックで作る絵本立ての試作のほか、主として、数年越しとなったマスコット・キャラクター付き分類表の完成（全体表と書架目録サイン用）に注力した（表2）。

活動日については、通常は登学日や活動日に、主なサポーターと教員で相談して活動予定を決める。図書館サポーターのLINE（担当教員・図書館員を含む）による連絡網を作成しており、簡単な活動報告、変更内容、次回の予定等の情報共有をしている。

表2. 主な活動内容

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
展示コーナー	○	○	○	○	○
サイン	○	○	○	○	○
ポスター	○	○	○	○	○
マスコット・キャラクター		○ ※旧キャラクター	○ ※新キャラクター検討	○ ※新キャラクター完成	
マスコット・キャラクター付き分類表				○ ※検討	○ ※実用化
サポーターブログ			○	○	○
ブックドレス				○	○
和綴じ本				○ ※販売	○
図書館だよりの発行				○	○

2018年度から2019年度の直近2年間における主要な活動であった3点、すなわちマスコット・キャラクターを使った分類表、図書紹介のブックドレスおよび和綴じ本に絞って、授業と関連付けた図書館サポーターの活動について記述する。

3.2 マスコット・キャラクター付き分類表

2019年度の図書館サポーターの主要な活動は、マスコット・キャラクター（以下、「キャラクター」）を使った親しみやすい分類表の作成である。

① 作成の意義

日本十進分類法（NDC）によって、図書館の資料が配架されていることをよく知らない学生が四大生の中にもいる。また、オンライン閲覧目録（OPAC）で検索した結果、請求記号と配架場所との関連性がわからないという学生もいる。アラビア数字で表記された記号と文字だけの分類表よりも、分野の特徴を表したキャラクターが案内すれば、もっと親しみやすく、不案内な学生の視線を集めることもでき、利用に導ける可能性が高まる。

このため、キャラクターを用いたパブリック・リレーションズ（public relations, PR）は、双方向性をもつ広報であるとして、2005年頃から他大学図書館では、大学内の公募によって決まったキャラクターを用いているケースがある^{12)、13)}。なお、キャラクターは、2017年12月27日時点で、大学図書館系で約40件、公共図書館系で30件以上あると推定される¹⁴⁾。

② 完成までの経緯

本学では、サポーターへの研修で、他大学におけるサポーター活動事例⁸⁾や、大学のキャラクター¹⁵⁾を図書館に用いた例の紹介を行いながら、本学図書館でのオリジナルキャラクターを用いた図書館利用促進活動の実現を探っていた。本学のサポーターによる初めてのキャラクターは、2016年度に初代のサポーターが共同で考案・作成し、その年度に実際に使用したが、2017年度には、このキャラクターを別のポーズで描く難しさ等の点から継続利用が困難であることがわかった。

サポーターから、特別なソフトを使わず誰にも手軽に描けること、多様なポーズが取れること、誰にも愛されること、サポーターが卒業しても引き継ぐことが必要との提案があり、新たなキャラクターの検討が始まった。2017年度末の図書館評議会では、図書館サポーターが活動報告の中で、おばけの形をした新キャラクターについて発表し、図書館公認で使用する許可を得た（図1）。2018年度の「図書館だより」（図書館サポーター作成）¹⁶⁾にも登場して名前を募集し、キャラクターを“ハシモト”と名付けた。NDCの第一次区分0類から9類まで10種類のポーズのキャラクターを、各自が分担して手書きし始めた結果、2019年12月にキャラクター付きの分類表が完成した。

現在、キャラクター“ハシモト”は、本や情報を利用者へとハシ渡しするモトとなる図書館のイメージキャラクターとして、館内OPAC検索端末の近くに分類表を掲示して利用に供している（図2a）ほか、各類別の書架目録サイン（図2b）にも利用している。

また、サポーター手作りのしおりにも採用するなど、利用支援面で活躍の場を広げつつある。

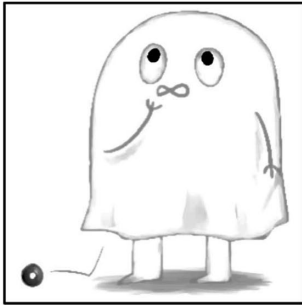


図1. 大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学附属図書館のキャラクター“ハシモト”



図2a. キャラクター付きNDC

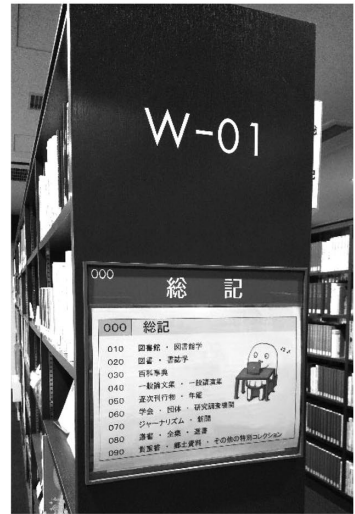


図2b. キャラクター付き書架目録サイン

3.3 ブックドレスの制作

① ブックドレスとは

本学の、1年生必修科目で作成した図書の紹介カードを、図書館サポーターが協力してドレス風に仕上げたのが、本学オリジナルのブックドレスである。この目的は、一年生全員による読書への啓発と、1年生全員の成果として、ブックドレスによる学園全体への読書推進をすることにある。

このブックドレスは、筆者が、一部の公共図書館や大学図書館で行われていた、本の木をヒントにして、女子短大らしいものにできないかと造形専門の教員に相談し、さらにサポーターの打ち合わせで、ネーミングやデザインについて相談をし、その結果を調整して出来上がったものである。いわば、学生と教員の協働制作物である。

本の木は、葉や花に見立てたカードに図書紹介文を書き、イベントの季節に応じてイチョウ、紅葉、桜等の葉・花や、季節を問わない常緑の葉に見立てた色カードを、180センチ前後の高さの大樹や木に見立てた平面ボードや、立体物に張り付けた例が多い。

本学のブックドレスとは、円形のパステルカラー5～6色の紹介カードを波のように連ねたものを、下から上まで12段ほど並べてティアードドレスに見立て、さらに上半身等も描き加えた、ほぼ等身大の半立体像である。少し地味になりがちな本の木よりも、明るく仕上げて、注目度を増す効果を期待した。

② 目的

ブックドレス制作の最大の目的は、1年生卒業必須科目の受講生同士がお勧め本を紹介しあうことによって、読書を啓発しあうことである。女子短大らしく、少し華やいだカラフルなドレスに仕

立てることで、本に関心がない人、他学年や四大生も本に興味を持って見てくれることを狙っている。第二に、この制作に協力するサポーターが、短大や図書館サポーター会を担っているという所属意識や自己肯定感を共有しつつ、ボランティア活動の実践経験を経て、協調性や達成感・満足感を得るような社会貢献へと導くことである。これは将来的なキャリア形成支援でもある。第三に、学生と協働する活動を学内外に広報することによって、本学やサポーターの存在意義を認めてもらうことも視野に入れた。

③ 制作要領

3、4月に、教員は、図書館サポーターにスケジュールや要領を伝える。5月上旬の1年生の共通科目「城南のこころ：女性と人権」(教員のリレー式講義)で事前に、受講生約200名が事前学習において、友人に紹介したい本の紹介文を下書きし、本を持参するように指示する。教員の担当授業時に、図書館の利用方法、請求記号の検索や見方を学んだのちに、隣席の人と本を紹介しあい、本の紹介のポイントを知り、紹介カードを作成して提出する。

図書館サポーターの活動日に、サポーターが、提出されたカードをテーマ別に分類し、読みたくなる本のカードの順位付けを行い、適度なティアードドレス風になるようにカード分量を段階的に調整して、毛糸にくくりつける。教員も裾にレースを配し、段付けしたボード上にカードがぶら下がった一連の毛糸を飾り付ける。高校のデザイン系コース出身のサポーターが、土台の白色段ボール面に上半身や腕部を描きあげる。その他のサポーターが吹き出しやリボンなどを工夫して装飾する。最後に段ボールの裏補強等の最終仕上げや調整を行う。

ティアードの裾が揺れるドレスのように、段々のカードが揺れるブックドレス2体は、1年目は作業全体に日数を要したが、2年目は3日程度で仕上げた。1年目に2体、2年目に1体を追加制作し、現在3体を学舎内と図書館に分散して設置している(図3、4)。



図3. 図書館設置のブックドレス (2018年度)



図4. ブックドレスの絵を描くサポーター(2019年度)

④ 周囲の反応

5月中旬には、当該年度の紹介カードが付いたブックドレス2体を、本学事務局や教務部がある第一学舎玄関エントランスホールに常設する。以降のオープンキャンパス当日には、目につく場所に移動させ、学生の成果物としてアピールするのに一役買っている。紹介カードを作成した1年生の中には、自分が書いたカードがどこに飾られているか、他のカードはどんなカードなのかと、友人たちと笑い声をあげて見ている姿があった。

オープンキャンパスでは、入学後にブックドレス制作に関わりたいという高校生もいる。紹介文を見た保護者等が、子どもに読み聞かせをした思い出や懐かしさに感動したり、定番として語り継がれている本なのねと、感想を述べられることもある。インスタグラムに投稿され、教職員からは是非毎年続けてほしいという声が複数寄せられており、好評である。

2018年9月下旬には、ブックドレスを学園の図書館にも移動させ、入館ゲート前に設置した(図3)。四大生が興味を持って、紹介カードをめくっている姿が見受けられ、四大生へよい影響を与え、図書館が親しみやすい雰囲気になったと、図書館員からも好感度の高い報告がある。

2018年度のサポーターは、「サポーターって何の活動をしているの?」と、友人から聞かれた時、胸をはって、こんな活動をしていると、説明がしやすくなったと言った。おそらく全国初の、本学のオリジナルであるブックドレスの構想は、目的どおり、学生、来学者、教職員や、図書館サポーターからも高評価を得られている。本学のブックドレスは、授業による学生の作品が、図書館サポーターと教員の手を通して、本学の新たな作品として誕生した協働成果物である。

3.4 和綴じ本の作成

① 和綴じ本

一般的に、和綴じは、「書物を日本風に綴じること。また、その綴じ方やその本。」¹⁷⁾のことを言う。日本では、和綴じの表紙や綴じられた用紙は、歴史的に元々は和紙であり、綴じ穴が四つある四つ目綴じや、一つか二つある大和綴じ等が多く用いられ、和本(和装本)が作成されてきた。和綴じ製本は、西洋式製本の綴じ方に対応する言葉である。本活動では、四つ目綴じを用いた和綴じの製本であることを特徴としており、四つ目綴じという名称が一般にイメージしにくいことから、和綴じ本と呼称する。

ここで取り上げるサポーター手作りの和綴じ本の素材は、表紙が和紙ではなく、現代の布であること、綴じ糸はカラフルな刺繍糸、綴じこむ用紙は白色の上質紙を20枚程度挟み、角布はメンディングテープを用いている。サイズはB6判(大)とA6判(小)を作成したので、和風の自由帳や手帖のようなものとも言える。布の種類、綴じ糸、角布の組み合わせ方や、手仕事による綴じ具合によって、それぞれ出来上がりが異なり、伝統的な和文化和現代感覚を融合させた、それぞれ唯一の一点本となる。

② 経緯

図書館の司書養成科目のうち、2年生前期の必修科目「図書館情報資源概論」では、図書館で扱う情報資源には、手書き資料（書写資料）、印刷資料、電子資料やネットワーク情報資源まで多様であることを学ぶ。そのうち、日常では触ることがほとんどない和紙を実際に触れる機会を持つため、四つ目綴じの学修を筆者の授業に組み込んでいる。

2018年度前期でも、四つ目綴じの体験を授業で行ったところ、2年生の図書館サポーターが、学園祭（城南祭）で初めて、和綴じ本の販売と和綴じ製本体験コーナーを設ける企画を立てた。企画した図書館サポーターを中心として、司書養成科目受講の有志の2年生を加えたメンバー6名がこのコーナーを主催した。珍しさもあり、和綴じ製本体験よりも、製本済みの和綴じ本の売れ行きは順調であった。

また、この企画を知った教員から、2019年1月20日に開催の恒例行事「ハッピーサンディ」（大阪城南女子短期大学×クレオ大阪中央 コラボイベント、場所はクレオ大阪中央）でも、和綴じ本販売と製本体験のコーナーを担当してほしいと依頼があり、サポーターとともに筆者も製本作業の応援や販売の支援等を行った（図5、6）。

一般の親子連れにとっては、学園祭の時よりも製本体験に関心が高く、綴じたあと、落書き帖のように、お絵かきやシール貼りなどをして楽しむ子どもが多かった。大人は、珍しいうえに安価なため、家族や友人へのお土産にと、製本済みの各種和綴じ本を、何冊もまとめて買いをする人が多く、若い女性達は自分のために買っている姿が見られた。販売・製本体験ともに、準備した半数以上を売り上げた。

なお、学園祭もハッピーサンディも、短大から活動に係る購入費に充当する補助金が支給されている。



図5. 販売の和綴じ本



図6. 製本体験コーナー

③ サポーター学生の感想

和綴じ本の製本・販売企画の中心となったサポーターは、後輩のために、和綴じ本の製本に関する記録を作成し、次のようにまとめている。

製本作業は、時間がかかるため、「人手が多い時に作業を分担して効率よく進めること」が大事で、作業計画を立てることが必要と述べ、「和綴じ本は、とても手間がかかる商品だが、手に取ってく

れた人にはそれが良く伝わっているようで、その結果が売上にも反映されたと考えられる」。

約1年後においても、「大変なことも多かったが、とても思い出深く、自分の自信にもつながる良い経験をすることができた」と語っている。

④ 考察

この企画をした学生達は、当初、学園祭で何らかの出店や出し物をせざるを得ない状況下で、くずし字を学ぶ「文献学入門（図書館基礎特論）」の教員にも相談したうえで、他とは一線を画す企画を考えた。今回は、サポーターの存在や、司書科目を学ぶ学生の認知度を高めることにも意味があった。2018年度後期は、図書館内の作業よりも、館外において予定外の和綴じ本製本のために多くの時間が必要になり、一年生も手伝うなど学生達の負担が増した。しかし、限られた製作期間内で、計画を立て、全体の見積もり、材料の調達、作業日、作業の工程分担、販売計画等、一貫した企画をサポーターらがプロデュースし、実践的な学びになったと考えられる。

2019年度は、サポーターの2年生の人数が少なかったことや結束力不足等により、対外的な活動には至らなかった。ただ、和綴じ本の評判を聞いた1年生から、2020年度に向けて計画的な製作を始めたいという希望があった。このため、前倒しになるが、「情報資源組織論」（1年生後期科目）で、図書目録作成の情報源の優先順位の第一が、表紙ではなく標題紙である理由を体感することも兼ねて、四つ目綴じの製本を行った。その後のサポーター活動日に、1、2年生のサポーターが集まり、各自が持ち寄った布で布製和綴じ本の試作を嬉々として行っていたので、来年度には自主的に製作開始ができると期待したい。

4. 図書館サポーター活動に関する評価

4.1 サポーターへのアンケート調査

4.1.1 調査目的

図書館サポーターの活動を通して、図書館サポーター会が活動を継続できる環境や条件を整えることと、今後発展するための意見を収集することを目的とした。

4.1.2 調査時期

2016年度、2018年度および2019年度の12月から3月

4.1.3 対象者と調査方法

本学の図書館サポーター（2016年度および2018年度は2年生のみ、2019年度は1、2年生）に対して、調査用紙（資料）を配付し、即時回収を行った。

4.1.4 調査結果

配布数および回答者数は、対象者全員で、18名である。

① 図書館サポーターに応募した理由

サポーターに応募した理由（複数選択可）は、回答件数49件のうち、上位から、「以前（小学校・中学校・高校）、図書委員を経験したことがあるから」（10件）、「何か楽しそうだったから」（9件）、「今後に、役立つ経験だと思ったから」（8件）、「大学図書館の仕事に関わることが面白そうだったから」（6件）、「自分たちで、創意工夫して活動できるのでいいと思ったから」（4件）、「就職に有利かもしれないと思ったから」（4件）等となった（表3）。

小学校・中学校・高校のいずれかで図書委員の経験者が、18人中10人の56％を占めている。

表3. サポーターに応募した理由

質 問	回答件数					計	回答者数 に占める 回答件数 の割合
	2016年度 (2年生)	2018年度 (2年生)	2019年度 (1,2年生)	1年生	2年生		
① 以前（小学校・中学校・高校）、図書委員を経験したことがあるから	2	1	7	6	1	10	56%
② 以前（小学校・中学校・高校）、図書委員を経験しなかったから	0	0	0	0	0	0	0%
③ 友達に誘われたから	1	1	0	0	0	2	11%
④ 大学図書館の仕事に関わることが面白そうだったから	1	2	3	3	0	6	33%
⑤ 教員や司書と協力して活動するのは面白そうだったから	0	1	1	1	0	2	11%
⑥ 何か楽しそうだったから	2	1	6	5	1	9	50%
⑦ 自分たちで、創意工夫して活動できるのでいいと思ったから	1	1	2	2	0	4	22%
⑧ 皆（図書館や学生など）のために役立つことができるのはいいことだと思ったから	0	1	2	2	0	3	17%
⑨ 今後に、役立つ経験だと思ったから	2	3	3	3	0	8	44%
⑩ 就職に有利かもしれないと思ったから	0	1	3	2	1	4	22%
⑪ その他	0	0	1	1	0	1	6%
回答件数	9	12	28	25	3	49	
回答者数	3	4	11	8	3	18	

② サポーターの活動についての感想

調査対象年の3年間では、評価点数平均が高い順に、「皆のためになる活動をしている」（4.2）、「今後、経験が役に立つ」（4.1）または「活動を始めてよかった」（4.1）という評価をしている（表4）。サポーターに応募した時は、「楽しそう」という理由が多かったが、実際は楽しさよりも、皆のためになる活動であり、自分のためにも今後に役立つなど、活動を肯定的に評価し考えていることがわかる。

また、2018年度は、4名全員が「活動を始めてよかった」を、評価5（大いにそう思う）と、高い評価を付けていた。2019年度の1年生を見ると、1年間だけの活動経験のためか、「皆のために

なる活動をしている」が若干高い評価をしつつも、「面白い」や「楽しい」も含めてどの項目も評価に大きな差がない。

表 4. 活動についての感想

(単位：点)

質問項目	2016年度 (2年生)		2018年度 (2年生)		2019年度 (1、2年生)						3年間 評価点 数平均
	評価点 数計	評価点 数平均	評価点 数計	評価点 数平均	評価点 数計	評価点 数平均	(1年生)		(2年生)		
							評価点 数計	評価点 数平均	評価点 数計	評価点 数平均	
(ア) 面白い	10	3.3	17	4.3	42	3.8	32	4.0	10	3.3	3.8
(イ) 楽しい	11	3.7	17	4.3	43	3.9	33	4.1	10	3.3	3.9
(ウ) 皆のためになる活動をしている	12	4.0	18	4.5	45	4.1	34	4.3	11	3.7	4.2
(エ) 今後、経験が役立つ	13	4.3	19	4.8	41	3.7	32	4.0	9	3.0	4.1
(オ) 活動を始めてよかった	12	4.0	20	5.0	42	3.8	32	4.0	10	3.3	4.1
計	58	3.9	91	4.6	213	3.9	163	4.1	50	3.3	4.0
回答者数	3		4		11		8		3		18

(自由記述) ※以下、原文ママ。[] 内は年度。
(ア)「面白い」例：相談をして何か企画などを作っているまでの過程 [2016]、四つ目綴じ本、学園祭 (販売) [2018]
(イ)「楽しい」例：とりあえず、やり遂げたこと [2016]、図書館サポーター作成のチラシ [2018]
(ウ)「皆のためになる活動をしている」例：ブックドレス [2019]
(エ)「今後、経験が役立つ」例：図書館サポーターのみんなで色々考えて取り組んだこと [2018]

(注)「評価点数」は、質問項目別の重み付けのために、(ア)～(オ)の質問別の5段階評価(5～1)の各評価点に回答件数を乗じたもの。

③ 活動自体の意義についてあるいは活動が自分にとってよいと思うこと

(自由記述) ※以下、原文ママ。[] 内は年度。

- ・ どうすれば人が来てくれるか等を考えるのは大変でしたが、やりがいを感じられました。もし将来司書になれなくても、会社などでも十分役に立つ能力を養えると思いました。[2016]
- ・ あまり頻繁には活動できませんでしたが、少しは将来のためになったと思います。[2016]
- ・ 自分たちで色々考えて活動するということがよかった。[2018]
- ・ それぞれの学生で連携し、活動を行っていくので目上の人や、後から入ってきた人との付き合い方が学べた。[2018]
- ・ 文章をまとめたり、考えを形にすることが活動前よりも上手になったと思う。[2018]
- ・ 何かをやり遂げたり、みんなで協力して作業することが楽しい。[2019]
- ・ 自分たちで図書館をより良くしようと考えて活動できるから。[2019]

④ 今後の活動についての改善点について

(自由記述) ※原文ママ。[] 内は年度。

- ・ できることなら、活動をもっと活発にしたほうがよいと思いました。[2016]
- ・ 募集をもっとひろめてみる。[2016]

- ・入学式などでサークル発表と同様サポーターのことを紹介する。[2016]
- ・図書館サポーターメンバーのスケジュール調整が難しいのでそれをうまくできるとよいと思う。[2018]
- ・学生同士の活動の分担の連携の具体的な調整。[2018]
- ・図書館サポーターは、1年生、2年生、教員の全員での意見を出し合って、まとまって活動していいほしいと思うので、スケジュールを合わせる事が大切かなと思う。[2018]
- ・出来るだけサポーター活動に参加して、みんなそろって何かやりたいです。[2019]
- ・(記録用の) 写真を撮り忘れない。[2019]
- ・できれば早く帰れるようにしてほしいです。[2019]
- ・1年生と2年生の活動日を分けて、その日の活動内容をLINEで報告して情報を共有するなど授業の数が人それぞれ違うので、活動日を一緒にするのは難しいと思いました。[2019]

4. 1. 5 調査の考察

① サポーターに応募した理由

サポーターに入った学生の半数が、過去に学校図書館で生徒として関わった図書委員経験者であり、その経験が「何か楽しそう」を連想させていたことがわかった。過去に司書がいない学校図書館で、図書館のルーチン的な実務(例えば、貸出、返却、整理、装備)を、図書委員として行っていた学生もいた。将来は司書を目指して入学した学生が、図書館に関わる仕事の一体験として、サポーターに応募したことがわかる。

また、2年後の就職も意識して、大学のサポーターに対して、新たな実利的価値を見出している。つまり、今後に役立つ可能性、大学図書館への新たな興味、自分たちで創意工夫の可能性、就職に有利な点など。このことから、将来を見据えたキャリア支援の一助となっているといえる。また、これらは、将来への期待が「何か楽しそう」を連想させる一部とも考えられる。

② サポーター活動の評価

2018年度の回答が、他の年度に比較して全体に評価点数平均が高い理由は、前年度とは異なる新規活動を3つ(ブックドレス、和綴じ本、図書館だより)を行うため、自主的に計画を立てサポーター間で協力し、行動的に取り組んだ達成感が大きかったからと考えられる。

特に、後期に重点的に取り組んだ和綴じ本は、自分達で企画・発案したことであり、さらに製作物を学外の公共的な場所でも販売し、企画から販売まで世代の異なる関係者や客の反応から対応の仕方を学び、収益を上げることにより、社会からのよい評価を体感した。期待されている立場を認識し、企画を成功させるため、仲間とともに士気を鼓舞し合いながら協力した結果、社会の一員としての責任を果たし、実利を上げ、達成感や満足感を得られたからと考えられる。

③ サポーター活動の意義

サポーターが考える活動の意義を、自由記述の中から抽出すると、次のようになる。

やりがいがある、将来のためになる、相手の視点を考える、自分たちで考える、学生で連携・協力する、付き合い方を学ぶ、やり遂げる、協力して作業する楽しさがある、より良くしようと考えて活動できる、以上である。

これらは、本学のサポーター会設置要綱の目的に規定した内容に沿い、目的を達成していると言える。サポーターが、「利用者側の視点で自主的な活動」ができ、関係者間で「協働」を行うとともに、学外でも様々な世代の人との販売・製本指導による交流を通して「付き合い方」を学んだ。さらに協力して企画が実現したり成果物が出来上がる「楽しさ」を体得しながら、学生の「社会人基礎力の育成」(「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」)を図る活動ともなっている。

国内では、大学図書館における学生協働の目的について、2013年当時は、i) 学生の利用者の視点、ii) 学習・キャリア支援、iii) 他の学生への学習支援の3点に着眼されていたが、それは大学図書館員の問題意識から、大学図書館員が主体となった学生協働であった⁴⁾。今後の学生協働の特徴は次の4点であると、岡野が述べた内容⁴⁾を、本学の和綴じ本の製本販売に関しては、すでに行っていたことになる。つまり、a) 学生が主役の活動であること、b) 大学図書館という空間の制約から解放されること、c) 学びの成果を学外において応用すること(方法は学生が決定する)、d) 学生自身が学びの協働関係をデザインできるように教職員が環境整備をすることである。

この環境整備については、学生の創造力、活動力や満足度を高めるには、安心して活動できる自由度のある活動予算を付けることが肝要であると考ええる。和綴じ本の販売・製本体験コーナーを主催する場合にも、材料費等を見込んだ補助金があったため、売上が芳しくない場合、実費は自腹になってしまうのかという不安を払拭し、安心して取り組むことができた。売上額は自分達の成果として還元される。このため、学園祭で売上が良かった布柄の選択や販売の工夫次第で、販売予想数に近づけることができるという確信をもって取り組むことができた。

④ サポーター活動の改善点について

2016年度の意見にあった活動の活発化、広報については、入学時の募集チラシを示しながら教員がオリエンテーションで説明する方法を改善し、2018年度からサポーターに入学時のオリエンテーションで説明してもらう方法に切り替えたことで、サポーターの人数が増えた。図書館員が管理していた図書館ブログを、サポーターが直接管理し、情報発信できる「図書館サポーターブログ」に変えた。図書館が要望する内容もこなしながら、徐々に自由な発想で主体的に活動できる範囲を広げ、活動の見える化を図っている。

履修科目が異なるために生じる活動日のスケジュール調整は難しく、特に1年生と2年生間の調整は、困難に近い。短大生はスケジュールが混み合っているうえに、最近2年間は、授業が空いているのは、5限目しかない状態であった。実際、教員も空いている木曜日5限目に実施しているが、就活スケジュールが混み合う2年生や実習が多い他学科の学生は参加しにくくなる。このため、1年生と2年生が別々に活動したり、2年生主導の活動に参加できる1年生が活動した。図書館外の場所での昼休み(45分間)に行うランチミーティングの予定も出ていたが、ミーティングだけで実

働が伴わないため、打ち合わせだけでは継続しにくい。学生の意向により、活動日に参加できなくても、図書館だよりなど、個人でも自宅でできる仕事や、活動日の仕事を分担する調整役は、教員がすることが多くなった。

教員は、必要な情報・知識を提供したり、資材を整えて活動しやすい環境を整えたりする調整役（サポーターと図書館員の仲介、短大行事等との調整）や、指導・相談・支援役となっている。

4.2 図書館司書からの評価（聞き取り調査）

サポーターの活動について、図書館司書（以下、司書）はどのように評価しているのかについて、2019年12月に聞き取りを行った。なお、聞き取り対象の司書は、2名のうち、主にサポーターの対応を行ってきた本学卒業生の司書であるが、両者から意見を聴取し、次にまとめた。

① 図書の展示について

短大生だけではなく、四大生も、展示コーナーの棚を見る習慣を育んでくれた。展示テーマも変わるの、利用者の目を引くことにつながっている。学生が選んだ本がよく利用されている。例えば、小説などが親しみやすい。司書では個人の好みに左右されてしまったり、気づかなかったりする本を、サポーター等、複数の学生が選んでいるからだと思う。季節にあったカードや折り紙を飾るのも保育系が多い大学図書館には合っている。

ブックドレス（入館ゲート近くにある）も、入館前に、本好きな四大生が紹介カードをいろいろ見ているから、効果的だと思う。

② サインやポスターについて

利用者の目線で発想されたサインなので、何が一番必要なのか、あらためて気づかされるのが有り難い。ポスターは、わかりやすい。通常の業務内では、時間がなくて着手しにくい、サポーターが作成してくれるので、あったほうがよいことに気づかされる。

③ 図書館の雰囲気の変化について

図書館サポーター制度ができる前、四年制大学らしい学術的な大学図書館の雰囲気が色濃かった。しかし、サポーターが活動することによって、華やかで親しみやすい図書館になった。大学と短大と半々の雰囲気になり、利用しやすい。

④ サポーターの存在について

図書館サポーター会が発足する前、ある教員からサポーターがいればどうかと言われたことがあったが、活動ができるようになって、よい方向に発展できたと思う。

学生にとっても、図書館にとっても、授業以外で図書館に来る機会があるのもよい。特に、短大では授業以外のことで集まることが少ないため、クラブ活動のような感覚で活動の機会があるのは、友人とのコミュニケーションができてよい。司書科目の理論だけではなく、実践できるので、自由な雰囲気楽しんで活動しているように見える。

以上のように、図書館員も、サポーターが活動することによって、学生に親しみやすい図書館環境の提供ができ、利用者サービスの向上ができていていることを認めている。さらに、サポーター自身が同じ関心を持つ学生同士のコミュニケーションの場として、図書館を自由な雰囲気でも活用している様子を微笑ましく見守っていることがわかる。

5. おわりに

生涯学習社会において、個人の自発性や自由意思に基づくボランティア活動では、ボランティアをする人にとって、学習の成果を幅広く生かし、自己開発、自己実現できることや必要な知識・技術が修得できるプログラムを準備することが必要と言われている。公的機関で市民協働を促進する場合は、補助金の支給、施設の貸与、研修会の実施、後援、情報提供や相談等が行われている。

また、公立図書館でボランティアを受け入れる際の要件について、①図書館の明確な指針、②利用者（住民）の自発的・意欲的な行為、③研修による図書館の基本方針等や役割への理解、④図書館の充実や発展への接続、という4点が基本であり、ボランティア任せにせず、図書館の主体性を持つことが必要とされている¹⁸⁾。

大学図書館の学生ボランティアであるサポーターの場合も、学修成果による自己実現、知識・技術の修得プログラムや研修、補助金、後援、情報提供・相談等が必要といえる。さらに、学生の成長を促す教育機関で行われることから、教職員と学生との協働のための環境整備には、特に、①補助金、②専門分野の研修会、③情報提供・相談体制が大切であると考えられる。

また、教員として今後、サポーターの独自性や新規性のある活動を導くために一番大切なのは、学生の主体的な探求心を刺激することであると考えられる。このためには、教員は、授業以上に広い視野で、図書館情報学分野への専門性を高める研修や指導を行うこと、例えば他図書館の動向を伝え、知識や技術の指導を行い、自由な発想による活動を見守る柔軟性も不可欠である。

本学では、教員の細やかな配慮として、次の点に今後も留意していくとよいと考える。

- ア) 利用者視点での要望、サポーターの自主性・主体性の重視と、図書館としての必要性等、接点を擦り合わせ調整する。サポーター制度の歴史が短いため、図書館からの要望が先にある場合でも、教職員主導になりすぎないように、サポーターの自主性を尊重し創意工夫ができる自由な活動ができるとよい。
- イ) サポーターへの研修内容を改善する。現在は、教員が、他大学で実施されている多様な事例を既存の動画や、教員が収集した画像や資料等によって紹介し、興味を喚起している。サポーター自身が情報収集を行い、学び合う雰囲気であればより発展しやすい。
- ウ) 各自の適材適所にあった分担をする。サポーターの発言や動きを見て、その意志を尊重すると、学生間で自然に役割分担が決まってくる。ほとんど問題がない場合が多いが、各自がそれぞれの仕事に熱中すると、手持無沙汰になるサポーターが出てくる。パソコン班、

工作班（折紙・展示カード作成等）、手書き班等、仕事の分担を考える。

- エ) 活動時間の調整を行う。短大が2年間であるため、授業の空き時間の調整がしにくい。参加できなかった人とのコミュニケーションの溝を埋め、互いの意思疎通を高めるための、ランチミーティングを行う案も出ていたが、昼では短く、内容や技術の継承が難しい。また、教職員が活動をサポートするため参加できる時間帯も考えておく必要がある。
- オ) アルバイトとサポーターの仕事の切り分けを明確にする。アルバイトは、書庫・閲覧室等の資料整理、配架、装備、必要な入力等であり、サポーターは、利用者の視点から図書館利用の活性化を図ることである。実務的な人手不足から、つい図書館の業務内容をサポーターに頼みたくなる時があるが、線引きを明確にしておく必要がある。

本学の図書館での学生協働については、授業内容の何が実践に接続するか、さらに応用し創造できるかの発想の源は、サポーターにある。自由なサポーター活動が、サポーター自身のキャリアとして将来に繋げることができ、図書館利用者や一般社会のためにもなるよう、教職員が支援する側であるという認識が必要なことを、改めて考えさせられる。

参考文献

- 1) 精選版 日本国語大辞典. コトバンク.
<https://kotobank.jp/word/プロデュース-622711> (参照2019-12-1)
- 2) 清原慶子. 地域社会と社会教育：文庫活動の展開と主婦の意識変化をめぐる一事例研究. 慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学. (18), 1978, p.65-73.
- 3) 廣田未来, 茂出木理子. 学生と図書館の協働の可能性：お茶の水女子大学LiSAプログラムについて. 大学図書館研究. 87, 2009.12, p.1-8.
- 4) 岡野裕行. 大学図書館における学生協働とは何か. 情報メディア研究, 18 (1), 2019, p.29-40.
- 5) 八木澤ちひろ. 大学図書館における学生協働について：学生協働まっぷの事例から. カレントアウェアネス (316), 2013.6.20, p.10-14.
- 6) 大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学附属図書館. 図書館サポーター会設置要綱（2015年4月20日施行）
- 7) 経済産業政策局. 社会人基礎力.
<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html> (参照2019-12-1)
- 8) 第3回 大学図書館 学生協働交流シンポジウム 私たちの手で作り出す図書館の形.
<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/LA/sympo2013/session1-05.html> (参照2019-12-1)
- 9) 岡崎聡志, 昌子喜信. 全国の学生協働をつなげる：大学図書館学生協働交流シンポジウムの取組み. 大学図書館研究, 102, 2015, p.54-64.
- 10) 文部科学省. 私立大学等改革総合支援事業「平成30年度 私立大学等改革総合支援事業調査票」

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/02/26/1413852_01_1.pdf (参照2019-12-1)

- 11) 大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学附属図書館. 図書館サポーターブログ
<https://jonanlibrary.tumblr.com/> (参照2019-12-1)
- 12) 呑海沙織. パブリック・リレーションズ戦略の実際：マスコット・キャラクターと選書ツアー. 情報管理. 52 (6), 2009, p.370-374.
- 13) 荒谷宏美. ロゴ&マスコットキャラクター募集はひと粒で何度もおいしい. 大学の図書館. 27 (9), 2008.9, p.176-178.
- 14) Lifo. 図書館キャラクター. <http://www.lifo-club.org> (参照2019-12-1)
- 15) 武庫川女子大学. 大学のキャラクター Lavy (ラビー) の紹介.
<http://www.mukogawa-u.ac.jp/lavy/lavy.html> (参照2019-12-1)
- 16) 大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学附属図書館 図書館だより. (1), 2018.7.
http://www.jonan.jp/library/biblio/news_letter/library_2018_7.pdf (参照2019-12-1)
- 17) 精選版 日本国語大辞典. コトバンク.
<https://kotobank.jp/word/和綴じ-665437> (参照2019-12-1)
- 18) 日本図書館協会図書館政策特別委員会編. 公立図書館の任務と目標：解説, 改訂版増補. 日本図書館協会, 2009.4.

(資料)

図書館サポーター会に関するアンケート

図書館

いつも図書館サポーターの活動にご協力いただきありがとうございます。
図書館サポーター会の活動について、感想や考えを正直にお答えください。
このアンケートは今後の活動の参考資料とさせていただきます。本会について報告する記事の添削版とする場合もあります。
なお、アンケートのまとめや報告に際しては、個人が特定されないようにします。

1. なぜ、図書館サポーターに応募しようと思ったか？ 番号に○を付けてください。(複数選択可)

① 以前 (小学校・中学校・高校)、図書委員を経験したことがあったから
② 以前 (小学校・中学校・高校)、図書委員を経験したことがなかったから
③ 友達に誘われたから
④ 入学図書館の仕事に関わることが面白そうと思ったから
⑤ 教員や司書と協力して活動するのは面白そうと思ったから
⑥ 何か楽しそうと思ったから
⑦ 自分たちで、創設工夫して活動できるのいいと思ったから
⑧ 図書館や学生など、みんなのために役立つことができるのいいことだと思ったから
⑨ 今後に、役立つ経験だと思ったから
⑩ 就職に有利かもしれないと思ったから
⑪ その他 ()

2. サポーターの活動を始めてどのように思いますか？5段階のうち一番近い数字に○を付けてください。

	大いに そう思う	そう思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない
(ア) 面白い 具体例があれば：()	5	4	3	2	1
(イ) 楽しい 具体例があれば：()	5	4	3	2	1
(ウ) 皆のためになる活動をしている 具体例があれば：()	5	4	3	2	1
(エ) 今後、経験が役立つ 具体例があれば：()	5	4	3	2	1
(オ) 活動を始めてよかった	5	4	3	2	1

3. 活動自体の意義について、あるいは活動が自分にとってよいと思うことがあれば、お書きください。
[]

4. 今後の活動について、どのような点を改善したらよいか意見があれば、お書きください。
[]

ご協力いただきありがとうございます

(きたがわ まさこ：准教授)